

氏名(本籍) 遠藤 学(埼玉県)
学位の種類 博士(歯学)
学位記番号 乙 第620号
学位授与日 2015年3月31日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第3項該当者)
学位論文題目 歯周炎患者に対するコーヌステレスコープ義歯が支台歯の予後に及ぼす影響
に関する後ろ向き研究
論文審査委員 (主査)教授 申 基喆
(副査)教授 中寫 裕
(副査)教授 大川 周治
(副査)教授 藤澤 政紀

論文内容の要旨

進行した歯周炎患者に対する口腔機能回復治療は、骨吸収による歯冠歯根比の悪化、残存歯の動揺、歯肉退縮、さらには歯の喪失など、補綴学的に困難な状況となっている場合が多く、治療後の二次性咬合性外傷による咀嚼機能の障害が生じることもある。リジットサポートによる義歯の一つであるコーヌステレスコープ義歯は優れた臨床上の特徴を多数有しているが、義歯が歯周炎に罹患した支台歯周囲の歯周組織や予後に与える影響について歯周病学的に検討した報告はきわめて少なく、歯周補綴における義歯の有用性と可能性を検討する必要がある。そこで本研究は、コーヌステレスコープ義歯を用いた歯周炎患者に対する口腔機能回復治療が、支台歯やその周囲組織の予後に及ぼす影響について調査することを目的とした。32装置 217 歯の支台歯について、補綴学的パラメータおよび初診時、義歯装着時、メンテナンス時における歯周病学的パラメータを調査し、比較検討を行った。その結果、各歯周病学的パラメータは初診時と比較し義歯装着時、メンテナンス時に有意に改善傾向を示し、経過期間中の支台歯の生存率は96.3%であった。以上の結果から、コーヌステレスコープ義歯は、慢性歯周炎により支持組織が減少し、支台歯が補綴学的に困難な状況にある場合でも、定期的なメンテナンスが継続できた場合に長期間にわたり良好な歯周組織を維持できることが示唆された。

論文審査および試験結果の要旨

本研究は、歯周炎患者に対して行ったコーヌステレスコープ義歯を用いた口腔機能回復治療が、支台歯の予後に及ぼす影響に関し歯周病学的観点から検討を行うことを目的とした。検討の結果、適切な歯周治療を行い、メンテナンスによる患者管理が継続して行えている場合、長期間にわたり良好な歯周組織および口腔機能の状態を維持でき、支台歯を長期的に保存できることが示唆された。よって、明海大学歯学部研究生 遠藤 学に対する1次審査は、2015年2月24日、主査 申 基喆教授、副査 中寫 裕教授、大川 周治教授、藤澤 政紀教授の4名により行われた。論文審査ならびに専攻学術の試験は口頭試問により実施し、合格と認めた。また語学試験は、関連文献の読解力について口述試問を実施し、その結果合格と判定した。よって申請者 遠藤 学は、博士(歯学)の学位授与されるのに値するものと判断した。